

2026-2027

■本日のロータリーソング

奉仕の理想

WEEKLY BULLETIN

9月17日(木) 第10号
第3173回 例会

札幌東ロータリークラブ TODAY'S PROGRAM

ガバナー公式訪問

RI第2510地区ガバナー
古野重幸氏



なぜ、指示しても人は動かないのか?～組織を動かす「非認知能力」を25分で体感～

(株)オフィスエルアール 代表取締役 谷津かおり氏

本日は、非認知能力を体感していただければと思います。簡単に自己紹介させていただきます。私は劇団主宰者を経て永年、演劇の世界で、俳優として、そして演出として作品を創ってまいりました。そして現在は、演劇で培ってきた力を、舞台をつくるためだけではなく、人を育てるために活用しています。学校や企業、福祉などの現場で「ドラマワーク」「演劇教育」という、演劇の手法を使った体験型のプログラムを行っています。実は演劇には皆様がイメージする舞台と客席が分かれていて鑑賞を目的とするシアター型と演劇の手法を使って学びを深めるワーク型というものがあります。日本ではまだまだ教育者でさえ、知らない人が多いのが現状です。

さて、なぜドラマワークが今、必要なのか…実は演劇をするとき、私たちはものすごく沢山の力を使っています。観て、聞いて、空気を感じる、自分で判断する。想像する。表現する。相手を受け取る。そして一緒に新しいものをつくる。これは、会社の中でも必要な力だと思いませんか？まさにビジネス基礎力であり、最も土台となる人間力というものです。会社でこんなことを感じることはありませんでしょうか？「社員のやる気が続かない」「もっと自分から動いてほしい」「会議をしても、なかなか意見が出てこない」「新しいアイデアが生まれない」「部署同士のコミュニケーションがうまくいかない」もし一つでも思い当たることがあったら…それは本当に、その社員の「能力が低い」からなのでしょう吗？もしかしら、その力が無いのではなく力を発揮する場所がないからなのかもしれません。

今、AIがものすごいスピードで進化しております。知識を調べる。文章を書く。データを分析する。アイデアを出す。これまで人間が時間をかけてやっていたことを、AIがどんどんやってくれるようになりました。では、そんな時代に人間は何をするのでしょうか？人を感じる力。自分で動く力。想像する力。共感する力。失敗してもやってみる力。人と協力する力。新しいものを生み出す力。これらが非認知能力であり、テストの点数やIQのように数値では測りにくい力です。本日は、これを頭で理解していただくのではなく、実際に皆様に体験していただきます。

まずは、五感絵画鑑賞。五感を使って1枚の絵を見ていただきます。視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚についてそれぞれ何を思ったのかをお配りした用紙に1分間で書き出してみてください。そして、書いたものにつきテーブルで共有してください。同じ絵を見ていても感じていることは人それぞれ

違うということが感じられたと思います。同じものを見ても、それぞれ見ている物語が違うということは、どこかでも起きていませんか。同じ会議を受けている、同じ数字を見ている、同じ出来事を経験している。それでも見えている世界が違うということは皆様の会社の中でも起こっているかもしれません。この時に「なんでわからないんだろう」ではなく、「この人にはどう見えているんだろう」という想像力を働かせてみてください。みんな見えているものは違いますが、多様であるということが根本にあります。

ドラマワーク体験をしていただきます。まずは、拍手回しです。卓のなかで順番に手を叩いていただきますが、まるで一人の人が拍手をしているかのように聞こえるようにしてみてください。上手くいきましたでしょうか。

次に、カウントアップです。卓で一人ずつ1から数字を言ってください。順番は決まっておらず、数字を同時に言ったら1からリセットです。どの卓が一番大きな数字に達するでしょうか。

最後に、YES, AND。二人一組になって、テーマに沿って話し合いをしていただきます。ルールは、「いいね、それなら」、で会話を繋げてください。次に、「でもそれは無理だよ、だって」、で会話を繋げてください。どちらの方が意見が出やすかったでしょうか。

ドラマワーク体験を経て今日のワークを振りかえると、皆様は観察する、感じる、想像する、自分で判断する、他者を受け入れる、協力し新しいものを生み出すことを体験されたと思います。これらが、「非認知能力」と呼ばれる力です。

YES, ANDで、皆様が体験したように、「言っても大丈夫」「やってみても大丈夫」「失敗しても大丈夫」「まず受け取ってもらえる」そんな場があると、人は自然に自分から動き始めます。この非認知能力は育てる事ができます。皆様の会社には、その力を発揮できる「場」があるのでしょうか？AIはこれから、ますます沢山の「答え」を出してくれるようになるでしょう。だからこそ、人間にしか出来ない力、正解のないところから、人と一緒に何かを生み出すこと。そんな力が、ますます必要になるのではないのでしょうか。会社の未来をつくるのは、「正解を知っている人」だけではなく、「まだない答えを、人と一緒につくれる人」そして、その力を発揮できる会社をつくるのは、経営者の皆様です。



持続可能なインパクトを生み出そう

2026-2027 年度 国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長: オラインカ・ハキーム・ババロラ

THE ROTARY CLUB OF SAPPORO-EAST WEEKLY BULLETIN

第2510地区
Rotary
札幌東ロータリークラブ

